

本日も熊本労災病院のHPを訪れていただき感謝申し上げます。

新しい年度になりました。病院駐車場脇の桜も、例年通り、淡いピンクの美しい花を咲かせました。ただ、今年ほど、この桜が「軽んじられた」年もないでしょう。新型コロナウイルスは、専門家の間では COVID-19 (Corona virus の COV, 感染疾患の infectious disease の ID,そして発生年の2019から19)と呼ばれていますが、まだあまりこの呼称は一般受けしないようです。しかし、その感染は広がるばかりです。欧米での最近の猛威は、私たちがその医療レベルを十分認識しているだけに、極めて強い恐怖を与えます。当院でも、面会制限をしたり、職員の健康管理強化の呼びかけなどの具体的な対応を始めましたが、国内、および熊本の現状を踏まえ、4月からは原則面会禁止にするなど、院内へのウイルス侵入をできるだけ少なくする対策を強化しています。自治体や法人の本部からは、「現時点で何人くらいの患者さんを受け入れることができますか？」という矢継ぎ早の質問も来るようになりました。いざとなれば、現在の欧米のように、日常診療をすべて切り替えて、感染対応一辺倒にせざるを得ないのでしょうか、そうならないことを祈るばかりです。また、できるだけ地域の医療資源を有効に活用できるよう、医療機関間の機能分担も、予め整備する必要があると思います。

そんな中でも春は来ました。桜とともに、熊本労災病院でも30名近い医師をはじめ、看護師、医療職や事務職など、80名以上のかたが就職されました。副院長をはじめ、病院の幹部職員にも新任や交代がありました。これまでは、原則お一人ずつ辞令を渡していましたが、感染予防の目的もあり交付式は中止しました。各所属長から受け取っていただいています。労災病院に勤務して、いろいろな立場で改めて医療に寄与しようとそれぞれ決意を新たにしてくださっていると思います。歓迎会なども開く事ができない状況ではありますが、このような環境下での就職が、逆に将来に残る良い思い出になればと思います。先輩職員たちも、人事交代で医療に穴があいてはいけない、間違っても事故があつてはいけない、とオリエンテーションはきちんと行い、指導に暖かい目を光らせています。今年から、1年目の研修医にはチューターをつけるようにしました。先輩の助けで少しでも早く職場に溶け込み、研修の実を挙げてほしいと思っています。

私もここでの4年目の春になります。早いものです。3年前の春、着任早々、あまりすることも無く院内の桜を巡りつつ、それまでの仕事を振り切り、新たな道へ進む決意を定めた淡い記憶があります。感傷と不安と期待がない交ぜになりつつも、それぞれが自身の仕事の意義を見定め、この熊本労災病院のみんなの力がさらに結集されて患者さんや地域の医療に貢献できるよう、院長として舵取りにさらに集中したいと思っています。今年度も、熊本労災病院への変わらぬご支援、叱咤激励をどうぞよろしくお願いいたします。